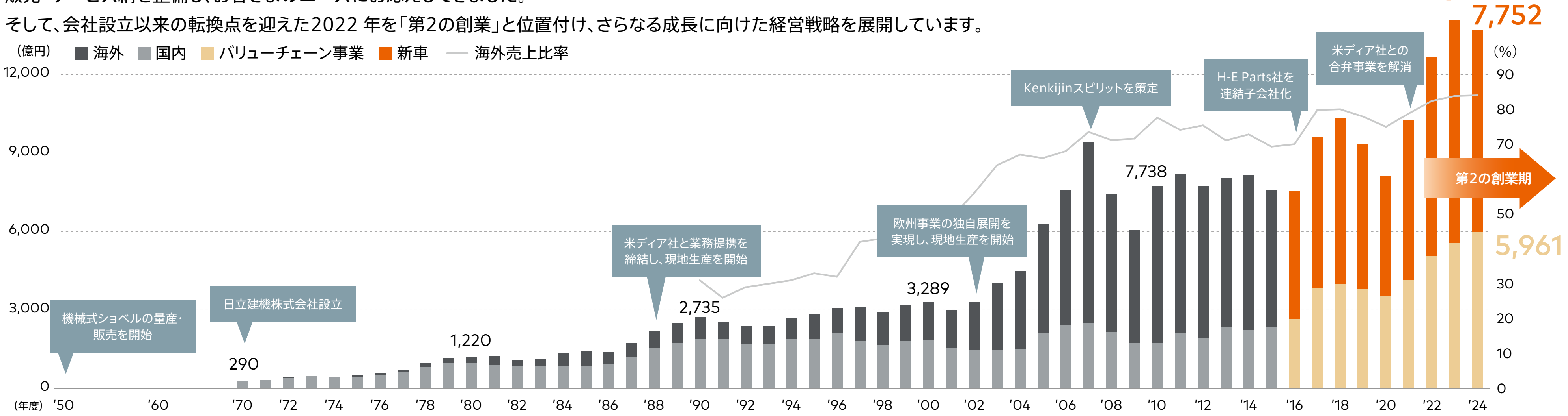
日立建機グループのあゆみ

日立建機グループは、1950年に機械式ショベルを本格投入して以来、70 年以上にわたり「現場」が求める最新の建設機械を提供してきました。また、RSS（レンタル・セールス・サービス）一体体制のもと、販売・サービス網を整備し、お客さまのニーズにお応えしてきました。
そして、会社設立以来の転換点を迎えた2022 年を「第2の創業」と位置付け、さらなる成長に向けた経営戦略を展開しています。

2024年度 **売上収益**
1兆3,713億円



機械の進化

1949年
戦後の復興と社会資本整備に向けた純国産技術による機械式ショベル「U05」が誕生。翌1950年、モデルチェンジした「U06」の本格生産を開始し、日立建機の歴史が始まりました。

1965年
純国産技術による国内初の油圧ショベル「UH03」を製品化。自社技術開発の2ポンプ2コントロールバルブ方式の油圧システムにより操作性を飛躍的に向上させました。

1986年
電子制御導入の新世代油圧ショベル「Landy EXシリーズ」発売

2000年
世界初の衛星通信機能を搭載した油圧ショベル「ZAXISシリーズ」発売

2013年
お客さまの機械を見守るサービスソリューションメニュー「ConSite」の提供開始

2016年
ICT油圧ショベル「ZX200X-5B」発売

2024年
ゼロ・エミッションの施工現場を協創する研究拠点「ZERO EMISSION EV-LAB」を開設